

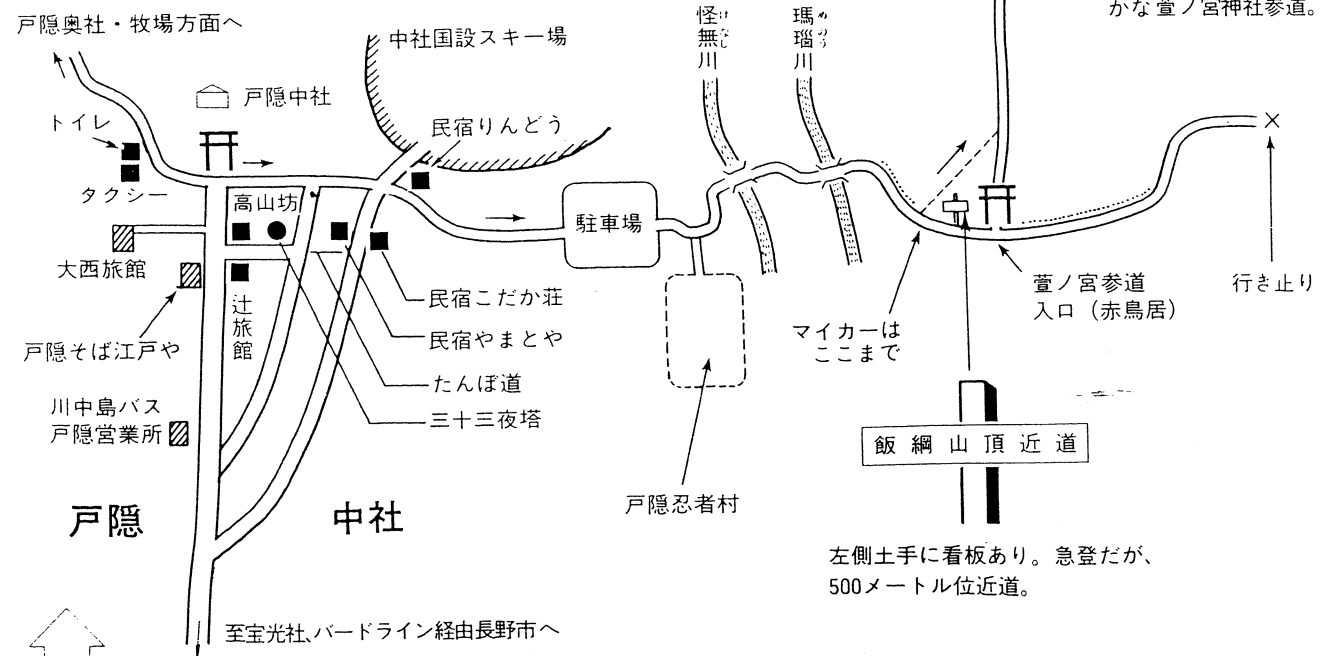
飯綱山の登山道を良く見れば

● 山へ行くときいつも思う。どうしてそう先へ、先へと急いで登るのだ。もっとゆっくり登ったらいいのに――。

● 君は山へ何を目的に行くのかと問われたら、「自然との対話」と答える。山で出会うすべてのもの、落葉、木の実、山の花、草、木、岩、石、そして風の音、山頂からの展望、石仏――そんなすべてが私には興味深いものだ。だから通りすぎてしまう山登りなんてもったいないと思う。

● 何十回と登った飯綱だけれど、道はしの石仏の一つ一つをよく見ると風雪に耐えた素朴なほほえみで私を迎えてくれる。こうして、イラストにしてみると、一つ一つの場所が今もなつかしく甦ってくる。山ではもっとゆっくり歩こう。自然と対話しよう。

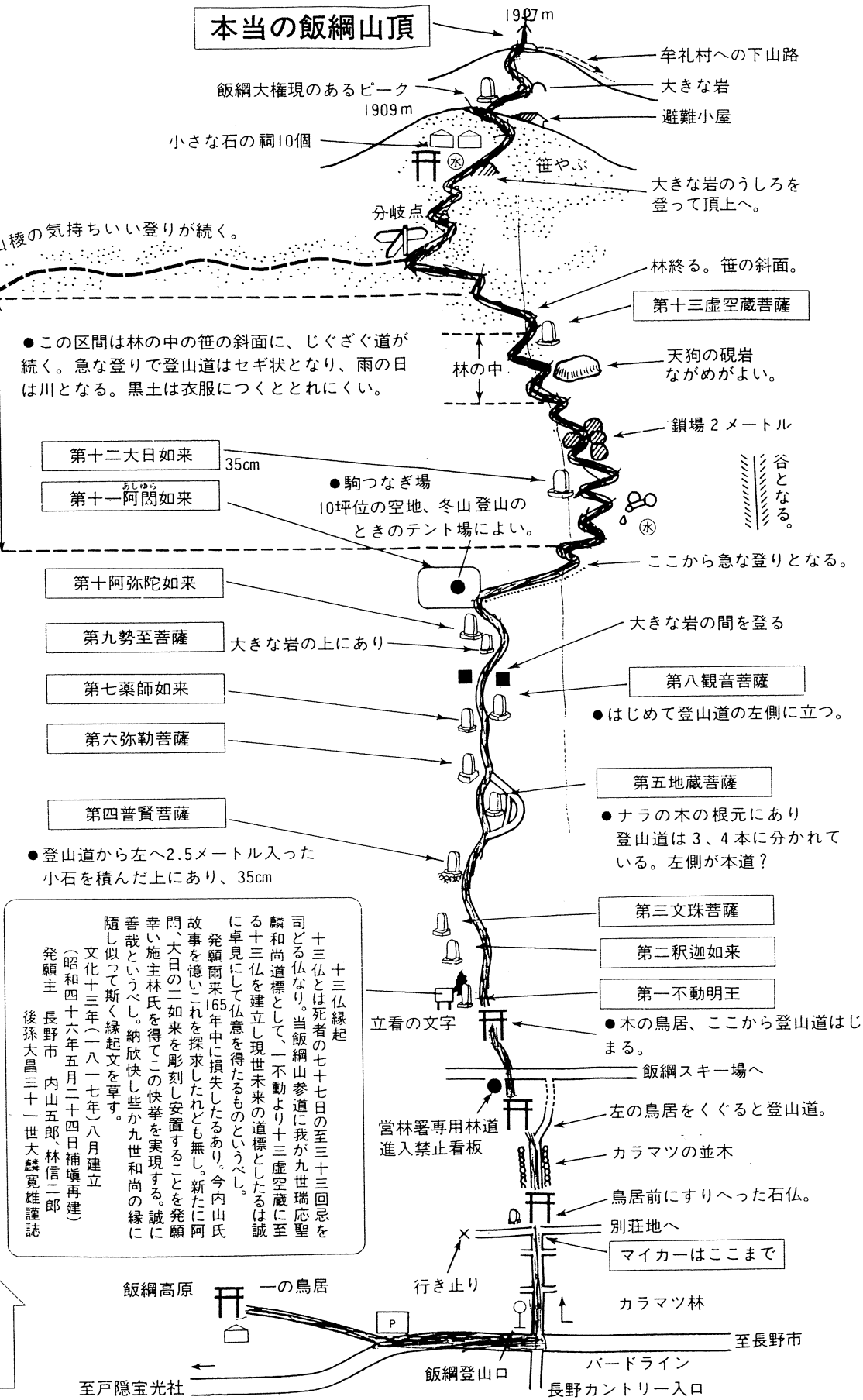
- この方向高妻、戸隠よく見える。
- 笹の中に石地蔵あり 50センチ
- 露岩のピーク、このあたり岩のごろごろした登り下り
- 岳樺、アオモリトドマツ等の林が切れて展望のいいピークとなる。
- 岩のごろごろしたセギ状の登山道。黒い地肌のところはすべる。雨の日は川となる。
- 萱ノ宮と鳥居 昭和28年再建とある。
- カラ松林の中一直線の登り。巾2~3mのゆるやかな萱ノ宮神社参道。



飯綱山萱ノ宮西登山道

飯綱山一の鳥居南登山道

本当の飯綱山頂



十三仏縁起
 十三仏とは死者の七十七日の至三十三回忌を司る仏なり。当飯綱山参道に我が九世瑞應聖麟和尚道標として、一不動より十三虚空蔵に至る十三仏を建立し現世未来の道標としたは誠に卓見にして仏意を得たるものというべし。
 発願 爾来165年中に損失したるあり。今内山氏故事を憶いこれを探求したるも無し。新たに阿闍梨大日如来を彫刻し安置することを発願幸い施主林氏を得てこの快挙を実現する。誠に善哉というべし。納欣快し些か九世和尚の縁に似て斯く縁起文を草す。
 (昭和四十六年(一九七一年)八月建立)
 発願主 長野市 内山五郎、林信二郎
 後孫大昌三十一世大麟寛雄謹誌

左側土手に看板あり。急登だが、500メートル位近道。

飯網高原周辺略図

